

# デビュー33年渾身新曲『俺たちのニライカナイ』

# 長渕 初の沖縄ソング

### 直筆メッセーシ

シンガー・ソングライター長渕剛(53)が、デビュー33年目で初めて沖縄を舞台にした新曲「俺たちのニライカナイ」をシングル発売(8月11日)するようになった。沖縄が米軍基地の移設問題に揺れる一方で、日本全体が無関心に見えたことが同曲制作のきっかけ。長渕はスポーツ報知に直筆メッセーシを寄せ、今こそ連帯やきずなが大切だと訴えた。



新曲で初めて沖縄を歌った長渕剛

# 聴いてくれ島人の絆

俺たちのニライカナイ  
作詞・作曲 長渕剛

幾千もの悲しみなど 数えてみても  
しかたがない 珊瑚の海に沈めれば  
わたしもあなたも一匹の魚さ

歴史も人生(みち)も暗い影ならば  
高い太陽が照らすだろう 路地を歩けば  
聞こえるよ わたしもあなたも島の風

俺たち島んちゅうは琉球の国ですべてを受け入れ それでも突っ立ち心ここに在るノ どうか忘れないで傷ついたら いつでも帰っておいでこの島へ

さらりさらりと黒髪ゆれる 決して語さらぬ苦しみなど 笑い泣きながら手さらさすれば わたしもあなたもより

東西南北 見わたせば はるか水平線陽が昇る ニライカナイの海がほとえむ 「いつもお前のそばに」とあなたを抱きしめるのがこの島さ

「俺たちのニライカナイ」  
 長渕と沖縄の縁は深い。九州産業大(福岡市)で学んでいた頃は、沖縄出身の友人がたくさんいた。歌手デビュー後は、毎年米軍基地移設問題(2009年)のようにライプを行ってき「彼らは怒り、嘆き、た。スケジュールの都合で17年間、沖縄公演が実現しな時期もあつたが、2001年、徐々に沖縄のステーションに立つたとき、街で地元の人から「お帰り、よく帰ってきたね」と歓迎された。うれしくて涙が出たという。「人間がでかい、懐が深い、温かい。じいちゃんもばあちゃんも若者もひとつになつて喜ぶ、自然の土地を愛している。長渕も、この歌がもたらす日本の変化を期待している。(関野 亨)

「いま必要なのは連帯感。帰ってきたね、帰ってきたね、仲間意識。沖縄ノ」と歓迎を着火点に、日本全体に広げたい。音楽が売れないう時代というけれど、僕は音楽の力を信じている。

「ニライカナイ」とは、沖縄や奄美の信じられてきた海のかなたにある聖地。ここから神々がやつつになつて喜ぶ、恵みをもたらす、自然の土地を愛している。長渕も、この歌がもたらす日本の変化を期待している。(関野 亨)

「俺たちのニライカナイ」は、日本全体に受けたいと感じた。連帯感や絆を強く結びたい。俺は叫びたい。俺たちのニライカナイ。俺たちのニライカナイ。俺たちのニライカナイ。俺たちのニライカナイ。

「俺たちのニライカナイ」は、日本全体に受けたいと感じた。連帯感や絆を強く結びたい。俺は叫びたい。俺たちのニライカナイ。俺たちのニライカナイ。俺たちのニライカナイ。俺たちのニライカナイ。

長渕剛(ながぶちこうじ) 1956年9月7日、鹿児島県生まれ。53歳。78年巡遊歌「デビュー1. シングル「乾杯」とんぼ「RUN」アルバム「昭和」などミリオンセラー多数。2004年に鹿児島・桜島で7万5000人を集めオールナイトコンサート。11年ぶりの本格演技となる倉本聰氏脚本のドラマ「帰国(カウ)」がTBS系で8月14日放送。